

# 随泉寺寺報

平成27年（2015年） 7月号 第539号

TEL082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺

## 安居会法座

講師 浄福寺副住職 山下瑞円師

講題 『仏縁に会う』

### ■伝統報告法要

本願寺第25代専如ご門主は、前門主の跡を承けて法統を継承し、本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門主として務められることになりました。ここに法統継承を仏祖の御前に奉告いたしますとともに、あわせて本願念仏のご法義の隆盛と宗門の充実発展とを期して、平成28年および29年に、伝灯奉告法要をお勤めされることになりました。

法要は1日1座、80日間つとめられます。多くのご縁のある方はもちろん、そうでない方も含めて、多くの方に参拝いただけるよう準備を進めています。

随泉寺のご門徒ももなるべく多くの方にお参りしていただきたいと思ひます。

### 7月の法座予定

- 7月 2日……………本部役員会
- 7月 12日……………掃除 長者原西
- 7月 15日朝席午前10時より……………若い婦人の集い おとき
- 7月 15日昼席午後1時より……………安居会法座
- 7月 26日昼席午後1時より……………随泉寺ビアガーデン
- 8月 1日午前9時より……………少年少女研修会
- 8月 2日午後5時より……………門信徒会本部役員会

### 「ネパール地震災害義援金」のお願い

2015(平成27)年4月25日にネパール連邦民主共和国を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生し、首都カトマンズを中心にインド等の周辺国においても甚大な被害をもたらしました。

宗派においては、首都カトマンズに「ネパール開教事務所(ソナム・ワンディ・ブディア所長)」「カトマンズ本願寺」を置き、活動の拠点としています。

安芸北組においても、昨年より同じお念仏のみ教えを喜び合う仲間として、微力ながら支援してまいりました。ネパールはお釈迦様の誕生された地域にも近く、熱心な仏教国です。今回の巨大地震により、美しく貴重な歴史的建造物や自然を破壊しただけでなく、多くの死と絶望の風景を残しました。

先般5月の安芸北組法中会において、被災地の一日も早い復興を願い、緊急に「カトマンズ本願寺」の復興支援活動を各寺ご法座での災害義援金を募ることとし、標記義援金の受付を開始いたしました。



私たちは、カトマンズ本願寺の支援が、ネパールの人々全体の支援につながれることをこころより願うものです。なにとぞ皆様方の温かいご支援ご協力よろしくお願ひいたします。

私たちは、カトマンズ本願寺の支援が、ネパールの人々全体の支援につながれることをこころより願うものです。なにとぞ皆様方の温かいご支援ご協力よろしくお願ひいたします。

### ☆ 《若い婦人の集い》 7月15日午前10時より

普段なかなかお寺にお参りすることのない若い人にもお寺にお参りする機会を、ということで開催される会です。近年定年の年齢も上がり、女性に限らず体の動くうちは、仕事をするのが普通になりつつある今日この頃。

お寺に行って仏様の話を聞いてみたくなるころには、体が思うように動かなくなり、お寺どころか病院ですら自分で行くことが出来なくなるのではないのでしょうか？ この「若婦人のつどい」気楽に楽しくお寺にお参りしてほしいとおもひます。



### 《随泉寺ビアガーデン》 7月26日(日) 午後5時より



今年もお待ちかねの《ビアガーデン》を開催します。去年は若院が焼き鳥を作ってくれました。今年は何が出るかお楽しみです。誘い合わせて参加してください。



### 《少年少女研修会》 8月1日午前9時より



アイスクリーム作りやお念珠づくりなど、楽しい企画を考えています。誘い合わせて参加してください。



## ☆浄土真宗本願寺派前門主 大谷光真著「あけぼのすぎ」

—浄土真宗一口法話— 7月 (宗正元)

「凡夫の身に 帰れば帰るほど

凡夫の身の底は 深くなる」

近年、若い人々の間に、本当の自分を見つけない、今の自分は本当の自分ではないという考えがあるようです。

最近の事件をきっかけに心の闇という言葉も広がりつつあります。仏教の伝統にも、自分を見つめる、ありのままの自分を探すという考えがあります。

しかし、普通の生活をしている私たちには簡単にありのままの自分を見つめることはできません。



shutterstock · 129351596

むしろ、本当の姿を見ないようにしているのかもしれませんが。凡夫という言葉も、言い訳に使いがちな私たちです。

阿弥陀如来さまのお慈悲に生かされることは、自分で本当の自分を見つけるのではなく、阿弥陀如来さまに私が見抜かれているということです。

ですから、良いことも良くないこともひっくるめて、いのち全体、この身をすべて阿弥陀如来さまにおまかせすることです。

私の中からどんなものが飛び出してきても、受け容れてくださり、支えてくださるお慈悲の中に、安らぎを得て、お互いに助け合って生きてゆきたいものです。

7月 カレンダー法語

東井 義雄師

うるおいのある目で見なかったら  
ほんとうのことは何も見えない

既に人生の日がとっぷり暮れてしまっている私です。この私が「人生の朝に立っているあなた」に、何とんでもない言い遺しておきたいことは、せっかくいただいた、ただ一度の人生を「空しい人生」にしないようにしてくださいということです。

七十年生きて、百年生きて、正味が空しければ、何のねうちもありません。人生は、長く生きるかではなくて、どう生きさせてもらうかです。そう思うと、私なんか、はずかしくてなりません。そこで、いままでの人生をふりかえり、私は、近頃、次のように考え、自分に言い聞かせています。

忘れていた

忘れていた 忘れていた  
牛のような 静かな 澄んだ  
うるおいのある目で物事を見るのでなかったら  
ほんとうのことはなんにも見えないということ  
ものほしげなキョロキョロした目  
おちつきのないイライラした目  
うるおいのないカサカサした目  
何かに頭を縛られた偏った目では  
しあわせのどまんなかにも  
しあわせなんか見ることも頂くこともできないまま  
せっかくいただいた二度とない人生を  
空しく過ごしてしまうことになるのだということ  
を忘れていた



☆4人目の孫に恵まれました。

6月10日に次女に二人目の子供が生まれました。女の子です。どの子どもどの孫も可愛いですが、女の子ですからよくぞ生まれてきてくれたという気がします。手仕事屋きち兵衛の「命連綿(いのちれんめん)」という歌をおもいだしました。

<手仕事屋きち兵衛の「命連綿」> 作詞 永六輔氏

母の母の 母の母の母の 母の母の母に逢いたい  
父の父の 父の父の父の 父の父の父に逢いたい  
オトコがいて オンナがいて  
出逢い 愛し合い 生命がつながる  
明日の生命が生まれる

孫の孫の 孫の孫の孫の 孫の孫の孫に逢いたい  
祖父の祖父の 祖父の祖母の祖母の 祖母の祖父の祖母に逢いたい  
あなたがいて 私がいて  
出逢い 愛し合い 生命がつながる  
明日の家族が生まれる

明日の生命が生まれる

単調な言葉の繰り返し、永遠の時間軸を感じさせます。あまり日常的には使わない「連綿」という言葉。広辞苑には「長くひきつづいて絶えないさま。連々。」とあります。

そうです。自然の摂理として、命が連綿と続いて行くには、命が永遠に受け継がれて行かなければならない。それには男と女の出逢いがあり、家族に恵まれて、子供を育む環境が必要。こんな当たり前のことが、最近では危機に瀕しています。



ここ十数年の間に、私たちの生活はどんどん変化してきています。特に携帯電話やパソコンの普及によって、自分で文字を書くという機会が減っています。そのせいでしょうか、いざ自分で何か漢字を書く必要があった時に、その漢字が出てこないことがあります。

そんな現代で、人気があるものにインターネットがあります。これは電子機器を使って利用するのですが、ボタン一つで商売や調べ物ができたりと大変便利なものです。さらに、それだけではなく新しい社会としても機能しており、たとえば遠くに住んでいて顔も名前も知らない人と知り合ったり、仲良くなったりすることも可能です。かたや顔や名前は知っていても交流が薄い、かたや顔や名前は知らなくても交流が深い、面白いですがどこか変ですね。こんなねじれが様々な事件や事故を起こしている原因の一つかもしれません。

中国の昔の書である「莊子」に出てくる「機械あれば、必ず機事あり、機事あれば、必ず機心あり」という言葉があります。「機事」というのは機械によって一つの仕事ができる、機械を使う仕事ができる、ことであり、「機心」というのは、機械を使って仕事をしていると、いつの間にか心まで機械のようになってしまう、ということだそうです。

機械や道具を使って仕事をしているうちに、いつの間にか今度は心まで道具に使われてしまっている、そんなことを感じることはないでしょうか。自分の足下をしっかりと見据えて下さい。大きな落とし穴があいているかもしれませんよ。

## 《平和を願う法要》 と 《本願寺広島別院・安芸教区全戦争死没者追悼法要並びに原爆忌 70 周年法要》

浄土真宗本願寺派広島別院では非戦平和を願って戦後 70 年を迎えるにあたり、来る 7 月 3 日（金）と 4 日（土）、広島平和記念公園内の供養塔前並びに本願寺広島別院において《平和を願う法要》《本願寺広島別院・安芸教区全戦争死没者追悼法要並びに原爆忌 70 周年法要》をご門主様ご親修にて厳修いたします。

その願いとするところは

- ① 戦争という人類にとって共通の痛ましい歴史を振り返り
- ② 犠牲となられた内外のすべての人々の無念の思いを心に刻み
- ③ 再び同じ過ちを繰り返さぬ決意を新たにし
- ④ 次の世代へ平和の尊さを伝えていく

宗祖親鸞聖人は<世の中安穏なれ 仏法ひろまれ>とのべられました。

究極の平和な世界は、阿弥陀如来の本願によって成就されたお浄土です。私たちは、お浄土をかがみとして、現実社会の様々な問題を直視し、すべての人々、すべてのいのちが、安心して共に生活できる社会、御同朋の社会の実現を目指して歩むことを願うものです。

### 《平和を願う法要》

1、日時 7月3日（金）14時30分から

2、場所 広島平和記念公園 供養塔前

参拝は自由です。どなたでも誘い合わせてお参りください。

## ☆ 御礼

永代経懇志	金	拾万円	七竹にしき殿	故七竹則男様	特別永代経志として
永代経懇志	金	五万円	西川 邦子殿	故西川 元様	特別永代経志として
永代経懇志	金	拾万円	古堀 恭子殿	故古堀岩男様	特別永代経志として
永代経懇志	金	貳百万円	観心院釋正護	中本健一殿	遺言にて

## ☆ 御礼

門信徒会へ	金	一封	西川 邦子殿	故西川 元様	香典返しとして
門信徒会へ	金	一封	下垣チエコ殿	故下垣良一様	香典返しとして

いまから 2500 年以上前にお釈迦様によってお説きいただいた仏教は、インド、中国、そして、朝鮮半島を経て、幾多のご苦勞の中、私どもの日本に伝来しました。お念仏の教えを日々の生活で悩み苦しむ私たち、苦しみを苦しみとも感じずにいる無明の中の私どもに、わかりやすくお説きくださったのが、親鸞さまです。そのみ教えは、「阿弥陀さまの本願を信じ、念仏申せば仏となる」というお念仏のみ教えです。そのお念仏のみ教えは、私たち一人一人のかけがえのない人生を活かし、受け止め、生きる大いなる道です。忙しい毎日に追われ、目先のことにとらわれて、人生において大切な意味を見失っています。その苦悩の中、何ものにも妨げられることのない、力強い生き方、明るく確かな真に安心して歩んでいける道へと導いてくださる教えなのです。